

宗像

毎月十五日発行
所 社
行 行
大 大
像 像
宗 宗
像 像
定価 一年送料共 1000円

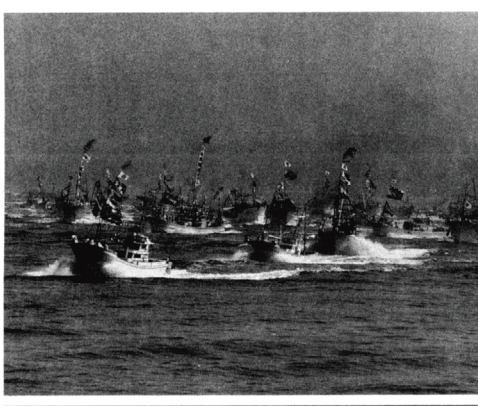
神具・装束
結飾式場用品

株式会社 **井筒**

福岡店 福岡市博多区東公園二二二番
電話 福岡三六八六一、二九四五
本店 福岡市中央区油小路六条北八番
電話 福岡三三四一、三三四二
電話 京都 三三四一、三三四二

秋季大祭の幕開け
海上神幸 「みあれ祭」

圧巻！四百隻の船団による海上絵巻



宗像大社の一大神事、「田島放生会」とも称される海上神幸「みあれ祭」が、宗像七浦と近隣の海舟の心意気を示すかのように、十月一日五原洋上で勇壮に実行された。

宗像大社の一大神事、「田島放生会」とも称される海上神幸「みあれ祭」が、宗像七浦と近隣の海舟の心意気を示すかのように、十月一日五原洋上で勇壮に実行された。

御神幸、「国家鎮護宗像大社」の大儀が翻翻と翻り埠頭で待ち受けるひととき鮮やかな御座船、鐘崎漁協所属の第十二「船長入津宮」御座船、鐘崎沖で迂回し、御座船の到着をいよいよ待たせられる神幸、海上絵巻の御神幸は圧巻であった。

この「みあれ祭」を拝観せんものと、鐘崎から神幸の海岸線は、地元もよる県内外の人々で埋め尽され、船団の上空は報道関係のヘリコプター、セスナ機が飛びかいた。

神幸港入港直前に御座船は一日御座船を一周して別れを告げ母港へと帰港。約一時間に亘り繰り広げられた海上絵巻は、将に五原灘を縦横無尽に駆け巡ったのであった。

大島港を出港した船団は、先導船の神主が威風凛々たる海原を、地ノ島方面へと進路をとり、紺碧の海面に幾条もの白い航跡を引きながら御座船の到着をいよいよ待たせられる神幸、海上絵巻の御神幸は圧巻であった。

神幸港入港直前に御座船は一日御座船を一周して別れを告げ母港へと帰港。約一時間に亘り繰り広げられた海上絵巻は、将に五原灘を縦横無尽に駆け巡ったのであった。

神幸港入港直前に御座船は一日御座船を一周して別れを告げ母港へと帰港。約一時間に亘り繰り広げられた海上絵巻は、将に五原灘を縦横無尽に駆け巡ったのであった。

七五三の案内

毎年十一月十五日に数え年三才の男女、五才の男児、七才の女児をつれて神社に参拝し、今日までの無事発育を感謝し、更に将来の成長を祈願するお祭りです。

今日の高校生の徳性の低下は、このムラ社会の崩壊とも深くつながっている。ところで、近來、学校でも地域の教育力を高めるようになってきた。筆者の居住地でもそれが感じられる。これは、学校自身が学校の多岐にわたる教育力を、当然であり、かつ望ましいことである。ただこれに幾多の問題がある。一つは、学校によっては地域外から来る生徒が多く、地域の教育力が透しにくいことである。非行の子供は地域外からの通学が多く、地域内の子供は概して良好であるとも聞いている。このような問題をかえながら、地域の教育力はいま一度見直さなければならぬ時期に来ている。その核として、神社はその有力な存在でなければならないと思う。

道徳教育の貧困

喫煙、怠学、服装の乱れ、遅刻、早退、欠席等々、高教教育の苦悩は今日も続いている。その騒然たる風景は、筆者の利用する駅頭にも見られる。髪を染め、だぶだぶのスボン、たばこを吸い、悪さば、その風体は男女を問わない。先日、関係の学校の先生からその事情を聞く機会があった。たばこの吸殻やジュースの空罐の投げ捨てなど、近隣の苦情も一日としてない日はないという。

「中抜け」という言葉もはじめて聞いた。生徒が授業を抜け出してエスケープするのをいう。校門指導という言葉は、神戸高専附校における女生徒自死事件以来よく知られるようになった。それは朝の校門で遅刻する子供を指導するものである。ところが、ここの校門指導というのは「中抜け」生徒の指導である。先生方は三、四、五、六校時と分けて校門指導に当たっている。

「中抜け」という言葉もはじめて聞いた。生徒が授業を抜け出してエスケープするのをいう。校門指導という言葉は、神戸高専附校における女生徒自死事件以来よく知られるようになった。それは朝の校門で遅刻する子供を指導するものである。ところが、ここの校門指導というのは「中抜け」生徒の指導である。先生方は三、四、五、六校時と分けて校門指導に当たっている。

「中抜け」という言葉もはじめて聞いた。生徒が授業を抜け出してエスケープするのをいう。校門指導という言葉は、神戸高専附校における女生徒自死事件以来よく知られるようになった。それは朝の校門で遅刻する子供を指導するものである。ところが、ここの校門指導というのは「中抜け」生徒の指導である。先生方は三、四、五、六校時と分けて校門指導に当たっている。

「中抜け」という言葉もはじめて聞いた。生徒が授業を抜け出してエスケープするのをいう。校門指導という言葉は、神戸高専附校における女生徒自死事件以来よく知られるようになった。それは朝の校門で遅刻する子供を指導するものである。ところが、ここの校門指導というのは「中抜け」生徒の指導である。先生方は三、四、五、六校時と分けて校門指導に当たっている。

第三七六回 **宗像大社歌会詠草**

中村 吾郎 選

毎月末日、切

田熊 鶯頭かつた
名月は澄みてあらむを病める眼にたは腰懸と黄の珠うつる

武丸 中村さつき
したたかに降りつぐ雨のひまひまに鐘は鳴き交ふ回りの森に

原町 八波 五月
群がりて蟻の曳きゆく仰向けるの輝を憫れむ木の陰にきて

赤間ヶ丘 松本 澄子
限りなく続く海原波走り晩夏の光りデッキにゆれる

自田ヶ丘 細川 絹子
風強く雨の中幾度も内光はしり台風迫る

徳重 石松や寿子
金さんと銀さんのごときませと州の梅の人影もらう

大島 屋形トミエ
迎火の燃を明るも波邊に煌と止まぬ波の広がる

須恵 馬場 ヤヲ
午前時目覚めの枕辺明るくて中秋の月夜空照らしおる

河東 薄 かのる
KBウオッチングのボスターが秋の参道脇に貼るる

池田 小田しめ
亡き伯父が植えたる梅樹空祠となりつつ茂りバス停に在り

福岡東 桜井 ツ子
しとしと降る雨雲をれば眼裏に秋の夜の稲妻青し

八幡西 山田アヤ子
此細なる仕事も真似て幼児は姉によりそひうとままれて居る

人の生命の誕生から成長そしてその維持と制御の仕組みはどのようになっているのであろうか。

最近の分子生物学は、この問いに多少ずつ解答し始めた。これはミクロの世界を覗ける高性能の電子顕微鏡などのおかげでもある。人体の基本単位とされる細胞の核の中に、目に見えるDNAで、デオキシリボ核酸という物質、一本のひも状で螺旋構造、これに塩基の四文字で遺伝情報が記されている。DNAは遺伝子の大事典、そのコピーの一本がRNAで、リボ核酸だ。

この働きで文字すつ暗号が翻訳されて、アミノ酸から蛋白質が生産される。この過程で遺伝子に損傷があると、異った組織が新生する。ガンやエイズの発症機序に遺伝子が深く関わっていることが知られてきた。

四塩基の遺伝子コードは動物、植物を通じて共通。細菌と人と共通する遺伝子が多数発見されている。

植物の藍色素を産現する物質が見つかると、遺伝子組み替え技術で藍色のパラダイムが夢でなくなった。

DNAの読み始めから、読ま終わるまでの染色体一セプトをゲノムという。いま米国ではゲノム計画が十五年間に亘って進行中。

人の遺伝子三千億個と、この歴史の大事業は、病の治療にも生命観にも変革をもたらすであろう。だが、遺伝子操作は生物の基本に開くだけに慎重の上にも慎重が期されねばならない。

宇宙と神への畏敬の念、分子生物学にも必要な時代となっている。

神幸港入港直前に御座船は一日御座船を一周して別れを告げ母港へと帰港。約一時間に亘り繰り広げられた海上絵巻は、将に五原灘を縦横無尽に駆け巡ったのであった。

神幸港入港直前に御座船は一日御座船を一周して別れを告げ母港へと帰港。約一時間に亘り繰り広げられた海上絵巻は、将に五原灘を縦横無尽に駆け巡ったのであった。

神幸港入港直前に御座船は一日御座船を一周して別れを告げ母港へと帰港。約一時間に亘り繰り広げられた海上絵巻は、将に五原灘を縦横無尽に駆け巡ったのであった。

神幸港入港直前に御座船は一日御座船を一周して別れを告げ母港へと帰港。約一時間に亘り繰り広げられた海上絵巻は、将に五原灘を縦横無尽に駆け巡ったのであった。

神幸港入港直前に御座船は一日御座船を一周して別れを告げ母港へと帰港。約一時間に亘り繰り広げられた海上絵巻は、将に五原灘を縦横無尽に駆け巡ったのであった。

神幸港入港直前に御座船は一日御座船を一周して別れを告げ母港へと帰港。約一時間に亘り繰り広げられた海上絵巻は、将に五原灘を縦横無尽に駆け巡ったのであった。

田島放生会

神郡宗像の秋を彩る三日間



神郡宗像に秋の訪れを告げる当秋秋祭大祭が、去る十月一日より三日に亘り爽やかな晴天のもと厳粛かつ盛大に廣行された。

大祭を迎える諸準備は地元総代、協力会々員等の奉仕により九月三十日午前中迄に全て完了。午後五時総社地主祭、同六時、宵宮祭が養父宮司以下神職奉仕のもと執り行われ、翌日からの大祭が無事廣行されるよう厳かな祈りが捧げられて、神職は参籠に入った。

十月一日、午前九時三十分、打ち上げ花火の合同にて大祭の初頭を彩る「みあれ祭」が行われ、玄界洋上に一時間に及ぶ勇壮な海上神幸の後、神楽港に入港。

沖津宮、中津宮、辺津宮の三宮の御神輿を載せた輩台は頓宮へと陸上を御神幸、三宮御神輿の大前に於て頓宮祭が廣行され、車にて辺津宮へ入御。各地の篤信者より奉獻された神酒や果物



宗像七浦よりの猊魚等、盛沢山のお供物が献供された辺津宮本殿にて入御祭を執り、五穀豊穰、大漁満足を祈念する祝詞奏上の後、田

島地区青年団奉仕による基本地方風俗舞が奉納され、一日祭が滞りなく廣行された。

二日午前八時、流瀧馬名式に続き、流瀧馬神事が行われ、三頭の神馬が馬場を駆け、射手より矢が放たれる度に見物の人々から歓声が湧いた。

午前十一時、二日祭を廣行。大勢の崇敬者等が見つめる中、神社庁宗像支部長大澄光信宮司(福岡市・諏訪神社宮司)外一名による郡内神職奉幣の儀、宮地嶺神社御幣使阿部信博氏、氏子奉幣使北野俊作氏による奉幣詞が奏上され、約五百年の伝統を誇る翁舞が、福岡寄多流の人々の奉仕により、災難消除、延命招福を祈念すべく厳かに奉納された。

午後二時から、中村氏彦高見神社宮司奉仕による末社祭が執り行われ、境内

七十五社の御祭神に敬虔なる祈りが捧げられ、二日祭の諸祭典も無事終了した。

十月三日午前十一時、三日祭が廣行され、玄海中学校女生徒の奉仕により、昭和天皇御製の花神楽に合わせ、華麗に舞う浦安舞を奉納、初秋の神花に悠遠な平安絵巻が繰り広げられた。

引き続き、高宮第一宮、第三宮秋祭大祭、宗像国神社に於ては本殿御再建十周年記念大祭が、伊豆・小山両県議会議員、福岡県護国神社荒木田宮司、宗像郡内各町村長、宗像市遺族連合会出光会長、宗像郡遺族



くの時吟・剣舞が披露されます。

期日 十一月三日
午前八時三十分より
会場 清明殿

第十八回
奉納柔道大会

宗像郡市中学校一・二年生約七十名が参加、団体戦、個人戦に力と技とを、手に汗にぎる男の闘いを繰り広げ、母校の名誉と個人の栄光をかけて奮戦する。

期日 十一月八日
試合開始 午前九時三十分より

第二十一回
献詠短歌大会

県内でも権威のある短歌大会として定評があり、県内外より百五十名が参加して開催されます。大会では著名な斯界の先生方をお招きし、講評・指導を受けると共に、参加者相互による批評、感想を発表する。

期日 十一月十四日
開始時間 午前十時より
会場 清明殿

第九回
宗像本因坊戦

宗像地区のアマチュア囲碁愛好者による、年に一度の昇級昇段のチャンスである。宗像地区最高級士の栄誉を賭けて、小学生から大人迄の男女剣士多数が出場、熱戦を繰り広げます。

期日 十一月三日
試合開始 午前九時より
会場 本殿脇境内

第十回
秋季奉納盆裁展

宗像地区の盆裁愛好家で構成する、宗像大社奉納盆裁会の会員が、日頃丹誠した秘蔵の盆裁約五十席を展示します。

期日 十一月十一日
会場 折願殿一・二階口

第十一回
奉納吟詠詩舞大会

境内に菊香の漂う中、熊本市に本部を置く、清香吟社会(会長長中野山)社中の会員が神前に詩吟、剣舞を奉納。清明殿に於ても数多



宗像地区最高級士の栄誉を賭けて、小学生から大人迄の男女剣士多数が出場、熱戦を繰り広げます。

第十二回
奉納剣道大会

宗像地区最高級士の栄誉を賭けて、小学生から大人迄の男女剣士多数が出場、熱戦を繰り広げます。

期日 十一月三日
試合開始 午前九時より
会場 本殿脇境内

第十三回
奉納吟詠詩舞大会

境内に菊香の漂う中、熊本市に本部を置く、清香吟社会(会長長中野山)社中の会員が神前に詩吟、剣舞を奉納。清明殿に於ても数多

第十四回
奉納盆裁展

宗像地区の盆裁愛好家で構成する、宗像大社奉納盆裁会の会員が、日頃丹誠した秘蔵の盆裁約五十席を展示します。

期日 十一月十一日
会場 折願殿一・二階口

第十五回
奉納吟詠詩舞大会

境内に菊香の漂う中、熊本市に本部を置く、清香吟社会(会長長中野山)社中の会員が神前に詩吟、剣舞を奉納。清明殿に於ても数多

第十六回
奉納盆裁展

宗像地区の盆裁愛好家で構成する、宗像大社奉納盆裁会の会員が、日頃丹誠した秘蔵の盆裁約五十席を展示します。

期日 十一月十一日
会場 折願殿一・二階口

第十七回
奉納吟詠詩舞大会

境内に菊香の漂う中、熊本市に本部を置く、清香吟社会(会長長中野山)社中の会員が神前に詩吟、剣舞を奉納。清明殿に於ても数多

【ご案内】

十一月の各種神賑行事

第十二回
西日本菊花大会

当大社境内全域に、九州山口各県の菊花愛好家が丹誠した鉢花三千五百鉢を、特設展示場に展示する。西日本随一の菊花大会です。

期日 十月三十日～十一月二日
会場 境内全域
(夜間照明有)

第十六回
宗像名刀展

この名刀展には、多数の氏子の方の御協力も得て、「刺・直刀・大刀・短刀・脇差・槍・長刀(薙刀)」

期日 十一月十五日
会場 境内全域

第十八回
奉納吟詠詩舞大会

境内に菊香の漂う中、熊本市に本部を置く、清香吟社会(会長長中野山)社中の会員が神前に詩吟、剣舞を奉納。清明殿に於ても数多

期日 十一月三日
試合開始 午前九時より
会場 本殿脇境内

第十九回
秋季奉納盆裁展

宗像地区の盆裁愛好家で構成する、宗像大社奉納盆裁会の会員が、日頃丹誠した秘蔵の盆裁約五十席を展示します。

期日 十一月十一日
会場 折願殿一・二階口

第二十回
奉納吟詠詩舞大会

境内に菊香の漂う中、熊本市に本部を置く、清香吟社会(会長長中野山)社中の会員が神前に詩吟、剣舞を奉納。清明殿に於ても数多

期日 十一月三日
試合開始 午前九時より
会場 本殿脇境内

第二十一回
奉納盆裁展

宗像地区の盆裁愛好家で構成する、宗像大社奉納盆裁会の会員が、日頃丹誠した秘蔵の盆裁約五十席を展示します。

期日 十一月十一日
会場 折願殿一・二階口

第二十二回
奉納吟詠詩舞大会

境内に菊香の漂う中、熊本市に本部を置く、清香吟社会(会長長中野山)社中の会員が神前に詩吟、剣舞を奉納。清明殿に於ても数多

期日 十一月三日
試合開始 午前九時より
会場 本殿脇境内

第二十三回
奉納盆裁展

宗像地区の盆裁愛好家で構成する、宗像大社奉納盆裁会の会員が、日頃丹誠した秘蔵の盆裁約五十席を展示します。

期日 十一月十一日
会場 折願殿一・二階口

吾ら郷土を思うとき

一話 (19)

日本が自他ともに世界のトップの座に多いと思う、と考えている人は多いと思う。いま幾分力では確かに超大国の仲間入りをしているのだが、果して文化面においても我が国が欧州諸国と同等に、世界の頂点に立っているであろうか、考えてみる価値がある。

確かに科学の力を駆使した物質作戦は効を奏してきた。戦禍に焼かれ焼土と化し、荒廃した世の中より立ち上がり、戦後四十年の間に高度成長を遂げ、尖端的な位置をとりつづけている。一方これが裏目と言えるかどうかは各論であるが、今は「暖衣飽食」の時代といえる。金融面では世界一経済大国と言われ、反面、成金趣味や口腹を敵かされる。これは「豊かな日本」といえるが、「文明は貧困」という声と一致する。生きる為の食生活を前提とした、生活に関する全ての面で開発も進んできた。これが反面、自然破壊の塊であるという声が高まっている。昨今である。自然の保護と開発とは「背」と「腹」の関係である。世界各国の人々と同等な条件で食事を楽しむには、自然を壊す国土開発も、ある程度は必要を得ない事業であった。近年はますます開発が進み、新たに開発されてきたおびただしい古代人の生活址を、眼に入れたら社会に浸るこが出来る。我が国は歴史的に水くわいていて、一國独立の国である。現在に至るまでには、社会面や文化面などで過去に三回程の大きな変革をみているといえる。

(1) 千年前の弥生時代
稲作定住と鉄製利器による食生活の安定社会形成である。

(2) 三〇〇年前の奈良時代
律令国家が成立し統一社会となり、芸術・文化も新しく開花する。

(3) 一〇〇年前の明治時代
長い鎖国も開けて全てが新しく、特に工業生産の著しき変革。

島国であるが四面を海に囲まれ、大地の上は他国との国境を持たないという、我が国との紛争がない恵まれた条件の所といえる。過去に水船の時代が続いてきた、常に新しい時代とともに新しい文化が船積みされ、隣の新文化が輸入された。当時の人々々が様々な夜明けを見たかは解らないが、消化複合した一つの文化として作り上げてきた。この繰り返しが日本を大國へと進めた原動力である。

いま安定社会の中で経済力も強化している。余剰の時間をいかに過ごしていくかその過ごし方と、今後ますます高齢化社会への道をたどる我々の日本の将来を見つめてみると、自分が住んでいる故郷の過去・現代・未来をもう一度考えなければならぬ。

この地に先住していた先祖、古代の人々の生活と文化をより一層探求していくことも、我々の生活の一環ではないかと思う。余剰を利用しての郷土学習を独りでも、又グループでも、いろいろな型で行っていくのが広く深く知り合えば、社会生活の一助となると思う。



くの時吟・剣舞が披露されます。

期日 十一月三日
午前八時三十分より
会場 清明殿

第十八回
奉納柔道大会

宗像郡市中学校一・二年生約七十名が参加、団体戦、個人戦に力と技とを、手に汗にぎる男の闘いを繰り広げ、母校の名誉と個人の栄光をかけて奮戦する。

期日 十一月八日
試合開始 午前九時三十分より

第十九回
奉納剣道大会

宗像地区最高級士の栄誉を賭けて、小学生から大人迄の男女剣士多数が出場、熱戦を繰り広げます。

期日 十一月三日
試合開始 午前九時より
会場 本殿脇境内

第二十回
奉納吟詠詩舞大会

境内に菊香の漂う中、熊本市に本部を置く、清香吟社会(会長長中野山)社中の会員が神前に詩吟、剣舞を奉納。清明殿に於ても数多

期日 十一月十五日
会場 境内全域

第二十一回
奉納盆裁展

宗像地区の盆裁愛好家で構成する、宗像大社奉納盆裁会の会員が、日頃丹誠した秘蔵の盆裁約五十席を展示します。

期日 十一月十一日
会場 折願殿一・二階口

第二十二回
奉納吟詠詩舞大会

境内に菊香の漂う中、熊本市に本部を置く、清香吟社会(会長長中野山)社中の会員が神前に詩吟、剣舞を奉納。清明殿に於ても数多

期日 十一月三日
試合開始 午前九時より
会場 本殿脇境内

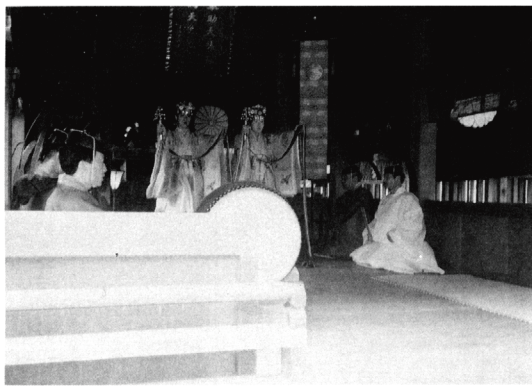
第二十三回
奉納盆裁展

宗像地区の盆裁愛好家で構成する、宗像大社奉納盆裁会の会員が、日頃丹誠した秘蔵の盆裁約五十席を展示します。

期日 十一月十一日
会場 折願殿一・二階口

沖・中岡宮秋季大祭

子供相撲・演芸大会に大いに賑う



当大社沖津宮・中津宮両宮の秋季大祭が、旧暦九月十五日に当る「体育の日」の十月十日、大島村全島挙げて盛大に斎行された。

大祭前日の九日、早朝より沖・中岡宮奉賛会員、同翼賛会員の奉仕により、境内の清掃、社殿の装飾、土俵の整備、演芸舞台の設置などが行われ、午後二時過ぎには神域の装いもすっかり整い、大祭を待つばかりとなった。

午後三時、中津宮地主祭が、同五時には、沖津宮遙拝所に於て沖津宮宮祭、中津宮に於て中津宮宮祭が各々斎行され、明日の秋季大祭が無事執行行われるよう祈念された。

翌十日、快晴の絶好の祭備のため万雷の拍手を受けて退席、同船は当日中近東に向けて処女航海の途に就いた。

出光タンカー

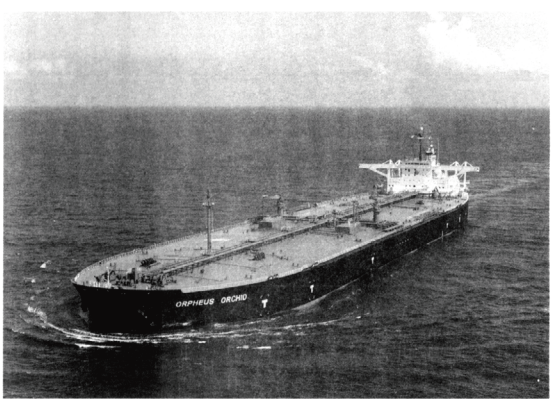
オルフェウス・オーキッド竣工

宗像大神を同船に奉遷

三菱重工業(株)長崎造船所香焼工場に於て建造中であつた、出光タンカー(株)の最新鋭タンカー「オルフェウス・オーキッド」(総重量二五八、〇八〇ト)が竣工した。

竣工後、同船の航海安全が祈念された。

祭典終了後、同船が整備された工場内の岸壁で、命名引渡式が執り行われ、出光社長以下多数の関係者が出席、除幕式を行った。式に光千恵子さんが行われ、出光社長が「古船閣」にて竣工祝賀レセプションが行われ、



出光タンカー「オルフェウス・オーキッド」の竣工式の様子。

典日和に恵まれた。午前八時十分、宮崎地区の厳島神社祭行。同九時、沖合に「つらつら」と浮かぶ沖ノ島の鳥影を望む遙拝所で沖津宮秋季大祭を斎行。祝詞奏上、巫女による連舞の後、玉串を捧げて沖津宮を遙かに拝み奉った。同九時三十分、御嶽山々頂に鎮座する御嶽神社祭が、農事関係者を始め崇敬者多数が参列して斎行された。

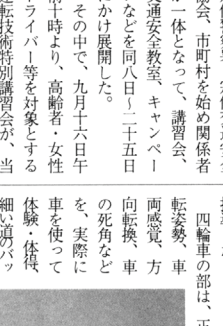
午前十一時、中津宮秋季大祭を斎行。国家、皇室の安泰と大漁満足を祈念する宮司の祝詞奏上に続いて、氏子奉幣使山口一氏が奉幣詞を奏上、次いで巫女二名が優雅な浦安舞を奉り、目原奉賛会長、出光宗像大社氏子会長、中村村長を始め氏子奉幣者多数が次々と玉串を捧げて拝礼、神前に敬虔な祈りを捧げた。

祭典に引き続き御神鏡と浄財を奉納いただいた坂口嘉一郎氏と、補用新薬を奉納いただいた山口宗氏への感謝状贈呈式を執り行った。

オルフェウス・オーキッドの竣工式を祝つた。レセプション半ばで内田船長と今村機関長が出航準備のため万雷の拍手を受けて退席、同船は当日中近東に向けて処女航海の途に就いた。

秋の交通安全県民運動

高齢者・女性ドライバーの運転技術講習会



九月十一日から始まった、秋の交通安全県民運動に伴い、宗像地区では宗像警察署、宗像交通安全協会、市町村を始め関係者が一体となって、講習会、交通安全教室、キャンペーンなどを同日八月二十五日に開催した。

その中で、九月十六日午前十時より、高齢者・女性ドライバー等を対象とする運転技術特別講習会が、当大社正面大駐車場で開催され、交通ルールの再確認や運転技術・マナーの向上を図られた。

当日宗像市郡内より約百名が参加、宗像警察署交通課、宗像交通安全協会、市町村関係者など、宗像地区では宗像警察署、宗像交通安全協会、市町村関係者が一体となって、講習会、交通安全教室、キャンペーンなどを同日八月二十五日に開催した。

豪州の若手政治家参拝

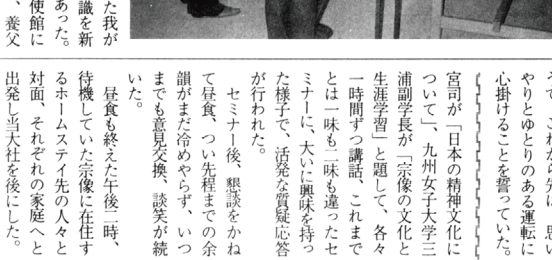
我が国の歴史・文化を学ぼうと

セミナー開催

オーストラリア、ニューサウスウェールズ州下院議員、P.アラランを団長とする、同国若手政治家一行九名が十月十一日当大社を参拝、我が国の歴史と文化を理解しようとする研修会に臨んだ。

一行は、日豪若手政治家交流を目的に十月二日、後半の九日、十四日に九州での研修として来福した。九州でのプログラムは、政治家との交流もさることながら、我が国の歴史、伝統、精神文化を学ぶこと、主眼が置かれた。そのためには全てで原典である神社、神道を理解するしかないといふ大社を参拝した。

一行は当日午前九時過ぎに来社、先ず作法通り手水で潔く本殿にて正式参拝、続いて当大社養父宮司の説明を受けながら神宝館を見学、四、五世紀に亘る約六百年間の国家的祭祀を物語る、沖ノ島出土の祭祀神宝に驚愕すると共に、有史以来、千数百年の長きに亘り、



皇室と共に歩んできた我が国の歴史・伝統に認識を新たにしていくようであった。神宝館見学後、勅使館にて、千数百年の長きに亘り、

九月十一日 福岡中学校長 松井彦伍氏来社

九月十二日 沖津宮神饗

九月十三日 福岡中学校長 松井彦伍氏来社

九月十四日 千葉県福島三

クで特設されたコースを走行し指導を受けたが、スロー走行や巾の狭い板の上の走行など思ったように運転できない参加者もあり、特別指導を受ける光景も見られた。

今回の講習を受けた高齢者・女性ドライバー達は、車やバイクの特性がどんなものか、思い込み運転やうっかりミスが交通事故に直結する危険性を、正しい運転技術、車、バイクの運転に際する基本を二時間に亘り熱心に指導された。

四輪車の部は、正しい運転姿勢、車、バイクの運転に際する基本を二時間に亘り熱心に指導された。

九月一日 月次祭・風鎮祭

九月二日 文化庁長官内田弘保氏・官房総務課長 書庫長本村俊孝氏外二名参拝

九月三日 鹿島建設九州支店福岡営業所長今津英幸氏外四名来社

九月四日 むなかた自由大海洋学上セミナー

九月五日 山口県大蔵神社宮司岩本篤生氏外四名参拝

九月六日 KBC朝日放送堀田総一郎氏来社「モーニング・モーニング」取材打ち合せ

九月七日 東京都神代川神社宮司渡部和助氏外二名参拝

九月八日 宗像大社秋季大祭打ち合せ四者会談

九月九日 出光産福福岡支店経理課長横田哲夫氏新庄理博の為来社

九月十日 第二回神道海外交流宗教事情視察記 録報告書編集会議 長

九月十一日 田神宮宮司津田信秀氏・熱田宮宮司吉川正通氏・熱田宮宮司宮加藤陽生氏・住吉神社宮司宮野五生氏・松尾大社権柄官尾崎俊俊氏出席

九月十二日 出光産福千葉計算センター業務課長齋藤恒久氏参拝

九月十三日 福岡中学校長 松井彦伍氏来社

九月十四日 千葉県福島三

氏小刀一振奉納

九月十五日 月次祭

九月十六日 高齢者・女性ドライバー運転技術講習会於大駐車場

九月十七日 出光タンカー(株)船員部長山崎敏氏・新造タンカー「オルフェウス・オーキッド」船長内田研一氏外一名参拝

九月十八日 宗像大社氏子会総代総会

九月十九日 宗像記者クラブ秋季大祭外報記者懇話会

九月二十日 清水市宗像神社宮司丸尾恒雄氏外総代三十五名参拝

九月二十一日 兵庫県伊丹市神宮権柄宜古舞陽氏参拝

九月二十二日 玄海町戦没者慰霊祭於宗像護国神社

九月二十三日 出光タンカー「オルフェウス・オーキッド」宗像大神鎮座奉祝祭 前記神職出向奉仕

九月二十四日 皇靈殿遷葬式

九月二十五日 宗像警察署警備課長相馬辰郎氏来社

九月二十六日 城山産福代表取締役吉水博則氏外城山に登ろう会三十三名参拝

九月二十七日 香椎税務署長佐藤浩彦氏外一名来社

九月二十八日 地元総代並協力会秋季大祭諸準備奉仕

九月二十九日 秋葉大祭社

九月三十日 秋葉大祭社

十月一日 秋葉大祭社

十月二日 秋葉大祭社

十月三日 秋葉大祭社

十月四日 秋葉大祭社

十月五日 秋葉大祭社

十月六日 秋葉大祭社

十月七日 秋葉大祭社

十月八日 秋葉大祭社

十月九日 秋葉大祭社

十月十日 秋葉大祭社

十月十一日 秋葉大祭社

十月十二日 秋葉大祭社

十月十三日 秋葉大祭社

十月十四日 秋葉大祭社

十月十五日 秋葉大祭社

十月十六日 秋葉大祭社

十月十七日 秋葉大祭社

十月十八日 秋葉大祭社

十月十九日 秋葉大祭社

十月二十日 秋葉大祭社

十月二十一日 秋葉大祭社

十月二十二日 秋葉大祭社

十月二十三日 秋葉大祭社

十月二十四日 秋葉大祭社

十月二十五日 秋葉大祭社

十月二十六日 秋葉大祭社

十月二十七日 秋葉大祭社

十月二十八日 秋葉大祭社

十月二十九日 秋葉大祭社

十月三十日 秋葉大祭社

宗像大社歌会

俳句作品集(三五五)

宗像大社歌会
俳句作品集(三五五)

元寇の島・鷹島へ(四)

71

若松 井手 清隆
雄略釣る海の平らや秋の風

ひかりヶ丘 南 風生
嫁がせて妻の聞き入る法師

田熊 安部 ゆき
住みつきしちろの雨や嵐

福間 森 清
早天の死の川に鮮魚泳ぐあ

名古屋 小田 喜一
掃くほどに零るるでなし夏

日里 花田いつ枝
大荒に洗ふ間引菜たちがあ

自由ヶ丘 細川 絹子
鱈巻今日の散歩は足軽し

田熊 九丸 一郎
雲の色風の音にも秋めけり

津屋崎 井浦 良介
ゆるやかに足浸しゆく秋の

福岡中央 力丸 玄風
文士の碑露草深く藍を抱く



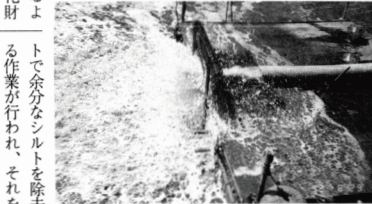
水中考古学の調査は陸上の調査の比ではない。まず陸上のように自由に動き掘ることが出来ないし、発掘作業員も限られる。補助員は全く考えられない。



床波の調査・台船の浮かぶところが調査中の海底

進行している土砂を除去したり、層位の確認をしなければならぬことは陸上作業と同じであるが、水中作業は大変な労力を要する。作業は潜水をし

て行うので、深さと時間に限定され、健康、安全面も陸上作業と比較にならないほど厳し。



ポンプでくみあげ作業

トで余分なシルトを除去する作業が行われ、それを後の上でネットを敷いて泥土と固形物(木片、貝殻、岩石、土器片、獣骨がネットに残り、そこで選別が行われていた。

①調査区の設定、②エアリフトの操作、③出土遺物の位置測定や遺構の実測、④水中カメラやビデオ撮影などの記録などであり、陸上では⑤潜水に必要な器材の操作と点検、修理、⑥筏の上に吸い上げられてくる散逸遺物の確保、⑦遺物の収納と注記、⑧台船上での各器材の操作・点検、⑨健康管理のための潜水作業時間割の作成、⑩水中通話を通じての作業の指示等であり、陸上の発掘作業の倍の労力と時間、経費を要する。

鷹島海底遺跡は一九八一年七月に遺跡として周知され、鷹島南岸全域で、東側は干上鼻から西側の雷岬まで延長七、五キロメートル、五キロメートル、一五〇万平方キロメートルに及ぶ、広大な地域である。

この間に防波堤や護岸工事が行われると調査と並行して、海底の遺跡や遺物類が漂着する一片の陶磁片が、このような調査がされるようになったことは、文化財保護として喜ぶべきことである。これからは、海岸に海底遺跡の発見につながることに、漂着物採集にも力が入るといえるのである、大事な役割を担っているといえる。



鷹島のモンゴル村

鷹島の水中考古学の調査も始めてから今年で十二年間が経過した。発掘の技術や道具類も進歩をとげ、それに水とを物語っています。

我が国は、終戦後、連合国軍最高司令官より「神道指合」が公布されて、神社は「国家の宗祀」の地位を失い、公共機関から神道に拘わることのすべてが撤去された。しかし、日本民族の精神構造の根底である敬神崇祖の道を見失うことなど今日に受けつがれていない。

神社は地域社会の精神的中心であると同時に、故郷の象徴であって、心の故郷ともいえるべき存在です。それは年末に帰る故郷に帰る、正月、初詣には必ずといっていいほどたくさんのお参り者を見ることが出来ます。日本人固有の精神文化

まつりと生活(五十二)

最後

私は「まつりと生活」というタイトルでいろいろな神道に拘わる問題に触れてきましたが、果たして神道とはどういう意味なのでしょう。

ものが、敬神崇祖という固有の信仰です。この敬神崇祖の道をもって、立つ国の中心にあるのが皇室であり、神道の神典である「古事記」や「日本書紀」は、皇室の祖先崇拝によっても示されます。

このように、我々の一生は、誕生から死ぬまで、考えて見れば数限りない、神との拘わり合いです。このこととは、神道とは、日本人の生活習俗そのものであることとを物語っています。

しかし現代では、科学技術や工業の発達に著しいものがありますが、反面、それが、健全な人間の精神の荒廃が指摘されています。

といえます。それが無言の最も大きな家庭教育になるのではないでしょうか。その姿が、健全な家庭をつくり、やがて一国の健全な精神基盤につながるっていくことはいまでもないことではないです。

今回をもちまして「まつりと生活」を終了させて頂きます。長い間、ありがとうございました。

Y・S 記

神郡宗像(九)

田中政喜

第七節 宗任大監配流
後冷泉天皇天喜四年(二二)陸奥の豪族安倍頼時は、その子貞任、宗任と共に反乱を起した。当時安倍氏は陸中地方(岩手県)に拠拠して父相父相に伝授した。その長として、その勢力は実に絶大なものであった。頼時は、その威力も益々強大となつて不逞無道をくわだて、附近一帯の地を奪略して、年貢を納めず横暴を極めた。

宗任は、その子貞任、宗任と共に反乱を起した。当時安倍氏は陸中地方(岩手県)に拠拠して父相父相に伝授した。その長として、その勢力は実に絶大なものであった。頼時は、その威力も益々強大となつて不逞無道をくわだて、附近一帯の地を奪略して、年貢を納めず横暴を極めた。

頼時は流矢に当り敗死したが、その子貞任、宗任は大剛の強者で、特に宗任は、豪勇の誉高く島海三郎と号して、兄貞任と協力してよく戦つた。

第六節 宗像家の分裂
後一条天皇の世(二二)宗像大宮司第六代妙忠の時から家門は二に分れた。公家、社家となつて、公家は萬葉城出に城郭を構えて居住し、家門繁昌して、国中の尊敬は殊に高くなった。よつて初代清氏卿からの官号を代々申し伝えて、中納言殿と尊んで、社家は昔のように片脇に居住し、清氏卿以来策前一代を領有していたのが、二家に分れた。御家人も同じく二家に分れた。

頼時は流矢に当り敗死したが、その子貞任、宗任は大剛の強者で、特に宗任は、豪勇の誉高く島海三郎と号して、兄貞任と協力してよく戦つた。

